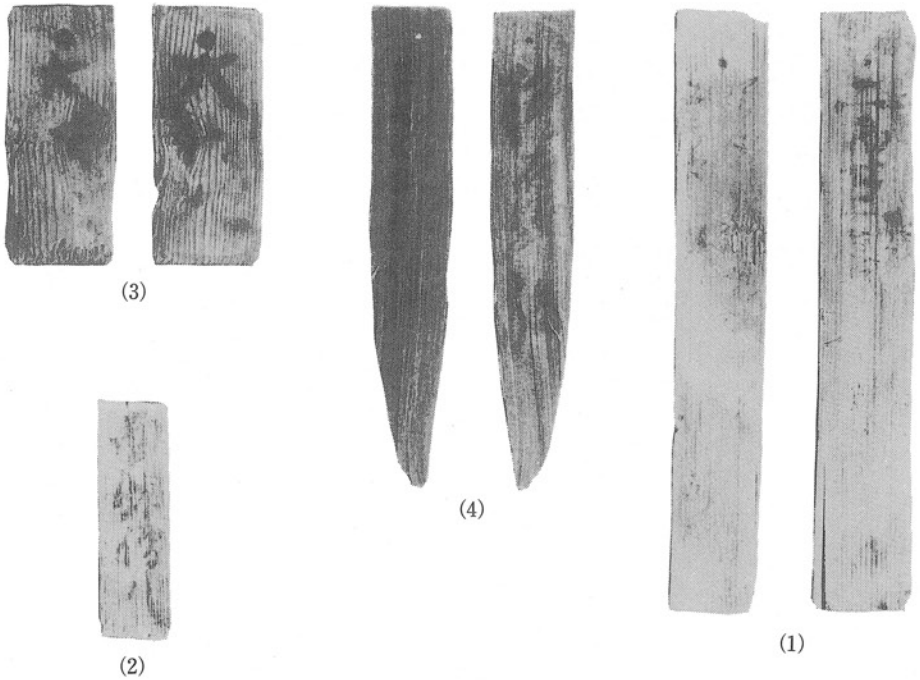


長野・松本城下町跡伊勢町

1 所在地　一・二　長野県松本市中央二丁目

2 調査期間　一　一九九六年（平8）一一月～一九九七年三月、
二　一九九七年二月～三月

3 発掘機関　松本市教育委員会

4 調査担当者　竹内靖長・沢柳秀利・村田昇司・荒木　龍ほか

5 遺跡の種類　城下町跡（町屋敷）

6 遺跡の年代　一六世紀後半～一九世紀後半

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

伊勢町は松本城下町の一三ある町人町のひとつで、飛騨高山、安曇平方面から城下町へ入る西側の玄関口である。松本城天守閣の南約八〇〇mに位置しており、町の規模は東西四七五m、南北六三～八四mで、東西に走る街道の両側に間口二～四間の奥行きが長い短冊形の地割がなされていた。文献による

（松　本）

と天正年間（一五七三～一五九一）に地割の基礎ができあがり、順次、整備されたようである。一九九七年度までの一七次にわたる発掘調査の結果、多くの遺構、遺物が出土しており、商人・職人の居住を裏付ける資料が検出されたほか、伊勢町の形成過程や町屋の生業の変遷、物流の様子などを解明する上で貴重な資料が得られた。

一　第一〇次調査

第一〇次調査地点は伊勢町の北東部に位置する。調査では一六世紀後半から一九世紀後半までの整地層を九層確認した（一～九検）。遺構には建物跡、土坑、溝、ピットなどがあり、遺物には木簡の他に、陶磁器（瀬戸・美濃系、肥前系、京焼系）、木製品（漆椀、下駄、木樋）、金属製品（銭貨、煙管）などがある。ゴミを投棄する空間から、排水施設や土蔵を構築する空間へ、という町屋裏側の土地利用の変遷が判明した。木簡は、母屋の裏側に位置する廃棄土坑と考えられる遺構から四点出土した。共伴遺物には、陶磁器、木製品、金属製品がある。

二　第一三次調査

第一三次調査地点は伊勢町の北側中央部に位置する。調査では一七世紀初頭から一九世紀代までの整地層を五層確認した（一～五検）。遺構は建物跡、土坑、溝、ピット、埋設桶、杭列などがあり、遺物には木簡の他に、陶磁器（瀬戸・美濃系、肥前系、京焼系）、木製品（下駄など）、金属製品（銭貨、煙管など）、鉄滓、鞴羽口、坩堝などがある。鉄滓、鞴羽口、坩堝などの出土は鍛冶屋や鋳掛屋との関連を推定させる。木簡は、第一〇次調査同様、母屋の裏側に位置する廃棄土坑と考えられる遺構から四点出土し、やはり陶磁器、木製品、金属製品などを伴出した。

8　木簡の釈文・内容

一　第一〇次調査

一検土坑二（一八世紀後半）

(1)　・「　○　弐ロ十五　一〇　町沢エ（記号）正　古久茂入」

・「○海陸安全〆文□　」　120×80×10　011

二検土坑二（一八世紀後半）

(2)　「○きり□□○○○○○　(128)×(29)×4　081

五検土坑一一（一七世紀中頃）

(3)　・「小□物□

・「□□□　(139)×24×5　011

(4)　・「極楽浄土」

・「□□　」　60×(29)×1　081

(1)は荷札木簡。他の木簡は用途不詳である。(1)の「一〇」、「古久茂」は穀屋の屋号。「町沢」は送り先の名か。

二　第一三次調査

一検土坑二（一九世紀後半）

(1)　「命請□（焼印）　(113)×(30)×9　081

二検土坑五（一八世紀後半～一九世紀初頭）

(2)　・「○□□平久ヶ田二村　○　」
　　命
　　・「　○
　　○□□□□○」　180×(33)×8　081

三検土坑一（一八世紀前半）

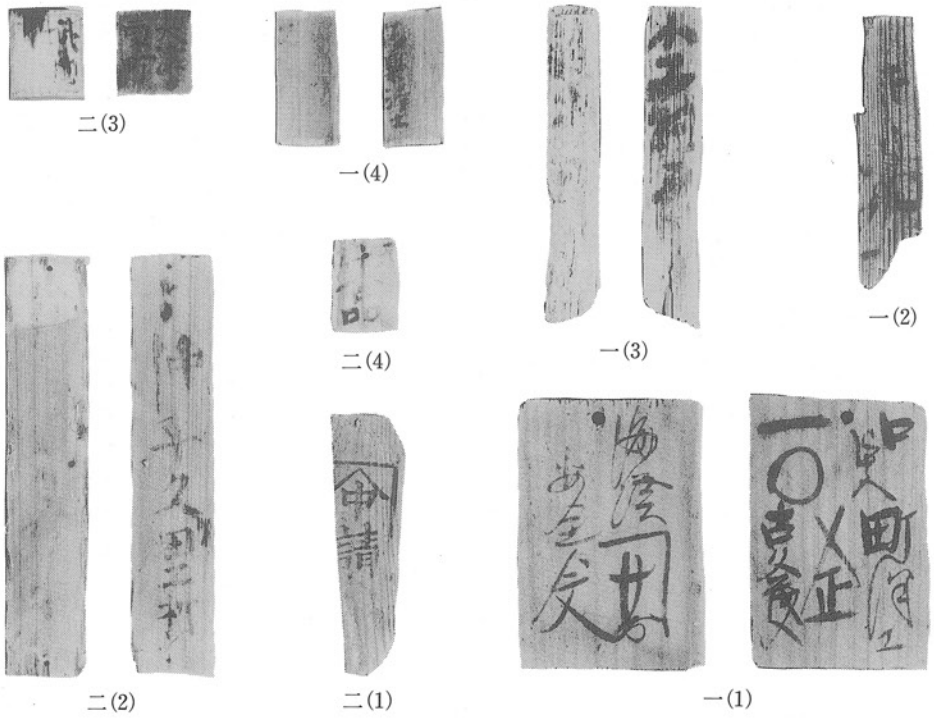
(3)　・「大津
　　南町」
　　・「■■」　37×32×10　021

三検土坑一〇（一八世紀前半）

(4)　・「○山品」　40×27×6　021

(1)(2)は荷札木簡。「命」（山中）が、調査地にあった商店の屋号か、取り引き先かは不明。残りの木簡は用途不明である。

（荒木　龍）



一(2)　一(3)　一(1)　一(4)　二(4)　二(1)　二(3)　二(2)